

「愛岐留学生就職支援コンソーシアム」 会員企業・留学生ワークショップ

7月4日(水)、中経連が参画する「愛岐留学生就職支援コンソーシアム」の活動の一環として、第1回「会員企業と留学生のワークショップ」を名古屋大学にて開催した。

本ワークショップは、中経連会員企業と当地域の大学に通う留学生に対し、相互理解を促進する場の提供を目的に開催されるコンソーシアム活動の一つであり、参加企業が希望するテーマに関して膝詰めでのディスカッションが行われる。

今回は、中部土木(株)の代表者2名と、名古屋大学大学院環境学研究科の留学生8名(国籍:モンゴル、中国、ベ



中部土木 事業戦略室の山田室長(左)
総務部の竹川主任(右)

トナム、カンボジア、フィリピン、ナイジェリア、ガンビア)と日本人学生1名、加えて名古屋大学と岐阜大学から教員3名が参加。建設工事マネジメントや道路舗装材のリサイクル等について熱心な議論が展開された。国土交通省の新たな取り組みである「i-Construction※」に関する議論では、留学生から、初期投資が高価ではないかという推測や、人件費が日本より格段に安いことを踏まえて的的確な質問が出されるなど、留学生の思考力の高さがうかがえるやり取りもあった。

参加企業、留学生、教員の意見や希望を取り入



カンボジアからの留学生による発言の様子

れつつ、今年度は引き続き5社とのワークショップを予定している。

※i-Construction:測量から設計、施工、検査、維持管理に至るすべての事業プロセスでICTを導入することにより、建設生産システム全体の生産性向上を目指す取り組み

(国際部 都島 嘉孝)

各種要望活動の実施

7月12日(木)愛知県における国際競争力強化のための広域幹線網などの整備推進を要望

要望先:牧野国土交通副大臣、菊地港湾局長 等

訪問者:愛知県、名古屋市、名古屋港管理組合、名古屋商工会議所、中経連 等

<主な要望内容>



牧野国土交通副大臣に要望内容を説明する訪問者たち

栗原中経連常務理事が、大村愛知県知事等とともに、牧野国土交通副大臣をはじめ国土交通省幹部等と面談し、愛知県内の道路および港湾の早期整備、大震災時の津波対策や水防災対策の早期整備を要望した。

道路整備については、県内のみならず中部圏全体の企業の国際競争力強化に資するべく、名古屋環状2号線をはじめ、西知多道路、名豊道路、名岐道路、浜松三ヶ日・豊橋道路、さらには新東名6車線化の早期整備についても要望を行った。

また、名古屋港の他、衣浦港、三河港の港湾機能強化、中部国際空港二本目滑走路の整備検討、さらには南海トラフ地震などを想定した津波対策や河川防災対策などについても継続的に取り組めるよう、予算確保のための要望を行った。

7月19日(木)名古屋環状2号線の早期全線整備を要望

要望先: 高橋国土交通大臣政務官、森技監 等

訪問者: 名古屋市、愛知県、飛島村、名古屋港管理組合、名古屋商工会議所、中経連 等

<主な要望内容>

名古屋環状2号線は、未整備区間の西南部・南部区間が整備されると、岐阜県方面から名古屋港へのアクセスが向上し、物流効率化や資本ストック効果、観光促進に寄与するとともに、南海トラフ地震など大規模災害時の緊急搬送路としての役割が見込まれている。2020年度の開通に向け、周辺地域では早期整備への期待が一層高まりつつある。

栗原中経連常務理事が、石原愛知県副知事、光安名古屋市住宅都市局長等とともに、高橋国土交通大臣政務官をはじめ国土交通省幹部等に対し、一日も早い早期全線整備を要望した。

7月27日(金)一宮西港道路の早期整備を要望

要望先: 今枝財務大臣政務官、高橋国土交通大臣政務官 等

訪問者: 愛知県、一宮市、津島市、稲沢市等沿線自治体、名古屋商工会議所、中経連 等

<主な要望内容>

一宮西港道路は、東海北陸自動車道一宮JCT付近～愛知県弥富市(伊勢湾岸自動車道)間に計画されている延長約30kmの地域高規格道路である。沿線地域の渋滞緩和や災害時の緊急避難道路としての役割が期待されるとともに、東海北陸自動車道から名古屋港や中部国際空港へのアクセスが容易になるため、物流や観光促進にも寄与することが期待されている。

栗原中経連常務理事が、石原愛知県副知事をはじめ沿線自治体の首長等とともに、今枝財務大臣政務官や、高橋国土交通大臣政務官をはじめ国土交通省幹部等に対し、一宮西港道路の早期整備を要望した。

(社会基盤部 平井 寧)

タイ王国閣僚との昼食懇談会



ウッタマ工業大臣(左から6人目)
コブサク首相府付き大臣(左から5人目)

7月20日(金)、中経連は名古屋商工会議所と合同で、ウッタマ・サーワナヨン工業大臣、コブサク・プートラクン首相府付き大臣をはじめとするタイ王国閣僚との昼食懇談会を名古屋市内にて開催した。中経連からは水野副会長、大井常任政策議員(豊田通商(株)取締役副社長執行役員)をはじめ4名、名商からは山本会頭をはじめ4名が参加した。

水野副会長は、「中経連では2014年から2016年にかけて、バンコク伊勢丹にて中部圏の食と観光資源のPRのため物産観光展を開催した。また、中部国際空港におけるタイからの入国者数は2014年の4.1万人から2017年には5.5万人と35%伸びている。加えて、7月からタイ国際航空の中部国際空港～バンコク線が1日1便から2便へ増便されるなど、今後のインバウンド効果に期待をしている。中経連としては、今後もタイと深い関係を築き、両国の経済発展に貢献していきたい」と述べた。

ウッタマ工業大臣は、「今回の来日は、中部圏を含む日本とタイの経済連携を一層深めるのに良いタイミングだと考えている。現在、タイに進出する日系企業は約7,000社に及んでいる。長期的なパートナーシップ形成には、民間企業に対する海外進出支援が必要だと日本の企業代表者や政府要人と意見を交わしてきた。企業進出をはじめ、今後も経済協力の深化と拡大を図り、Win-Winの関係を保ちつつ、共に発展していきたい」と述べた。

続いて、中経連および名商の参加者より自社の事業などについて紹介が行われた後、タイ王国閣僚との意見交換を行った。

フィリピン貿易産業大臣 表敬訪問



7月25日(水)、フィリピン貿易産業大臣のラモン・ロペス氏が中経連を訪れ、豊田会長、藤原常務理事事務局局長等と懇談した。

ロペス氏は、「日本はフィリピンを含むASEANにとって、心強いパートナーと認識している。フィリピンには、トヨタ自動車やデンソー、アイシン精機等の製造業を中心に多くの日本企業が進出しており、一番の投資国でもある。日本企業とは自動車製造をはじめ、さまざまな産業において、技術革新を行っていききたいと考えている。特に航空宇宙事業に力を入れており、ドイツとはすでに共同開発をはじめている。また、ボーイングの機体のメンテナンス等もフィリピンで行っており、今後も成長が期待される産業の一つである」と述べた。さらに、「中部圏とは、企業だけでなく大学とも技術交流を深めていきたいと、さまざまな分野で支援協力をお願いしたい」と要請した。

豊田会長は、「航空宇宙事業に関しては、中部圏としても力を入れている事業の一つであり、ボーイング787-10の部品の35%が当地で製造されている。また、環境・エネルギー事業において、フィリピンの企業と日本企業が長年共同で事業を行っており、一層の発展を期待している。今後も引き続き、連携協力していきたい」と述べた。



(国際部 平山 りえ)

「中部圏イノベーション促進プログラム」 第2回講演会

7月26日(木)、中経連は「中部圏イノベーション促進プログラム」第2回講演会(共催:中京テレビ放送(株))を名古屋市内にて開催し、約200名が参加した。本講演会は、情報提供プログラムとして継続的に開催しているものである。



ご講演いただいた出口氏

今回は、立命館アジア太平洋大学(APU)学長の出口治明氏を講師に迎え、「組織としてのイノベーション戦略のあり方～イノベティブかどうかも含め組織のあり方

はトップに依存する～」と題してご講演いただいた。

出口氏は、「判断を正しくするには『たて(歴史)×よこ(世界)×算数(数字)』で考えることが重要。また、イノベーションのほとんどは既存知の組み合わせだが、既存知の間の距離が近いと良いアイデアは生まれないのでダイバーシティあふれる環境をつくるのが大切」と説明した。

次回は、10月2日に開催する予定である。



出口氏の講演内容に質問する参加者

(イノベーション推進部 渡邊 有紀子)

女性の活躍に関する講演会

7月27日(金)、中経連は総合政策会議において、宮本愛知県副知事を講師に迎え、「女性が輝く社

会をめざして「女性が元気に働き続けられる愛知に向けて」と題した講演会を行った。



ご講演いただいた宮本副知事

<講演要旨>

少子化、生産年齢人口の減少が進む一方で、愛知県の有効求人倍率は全国で4番目に高く、人手不足にある。他方で、愛知県の女性の就業希望者は31万人に達しており、女性のさらなる活躍を労使双方とも真剣に考えるべき状況にある。

海外のデータによると、女性の活躍推進やワーク・ライフバランスに取り組む企業は、業績や経営指標が良い傾向にある。愛知県による企業1,080社への調査でも、女性の活躍を推進するメリットとして、「女性社員のモチベーションが向上した」「仕事の効率化や業務の改善が進んだ」「男性社員に良いインセンティブとなった」との回答が上位にある。

現在、女性の「定着」の点では改善が見られるが、「活躍」の点では途上にあり、女性幹部の「登用」が重要である。「登用」により、女性のロールモデルができ、女性のモチベーションが向上するとともに、人材の確保・育成につながる。また、ダイバーシティ経営にもつながる。

「女性の活躍」「ダイバーシティ」と「社員全体のワーク・ライフバランス」「働き方改革」を車の両輪と捉え、男女双方の課題として取り組むべきである。また、両立支援と活躍推進策を同時に進めることも肝要である。

企業が存続・発展していくためには、女性の「定着」と「活躍」は今や必要不可欠であり、そのためには「男性中心のマネージメントで回る」組織から、「全社員の能力を引き出すマネージメント」へ変えることが必須と考える。

(総務部 亀井 勝彦)

駐日シンガポール大使 表敬訪問

7月27日(金)、駐日シンガポール大使のルイ・タックユー氏が中経連を訪れ、豊田会長、小川専務理事等と懇談した。



タックユー氏は、「明日から中部国際空港にシンガポール航空 ボーイング787-10の最新鋭旅客機が就航する。これにより旅客数増加が見込まれ、一層の交流深化を期待している」と述べた。また、「現在、シンガポールには5,000社の日系企業が進出している。多くの企業からアジア最初の進出拠点として選ばれるのは、国際都市としてビジネスがしやすい環境が評価されている証である。中でも製造、サービス、研究開発、バイオサイエンス、製薬などの企業誘致に力を入れている。これらの分野を中心に中部の企業が海外進出を検討する際は、ニーズにあわせて支援していくので、シンガポールを是非選んでほしい」とアピールした。

豊田会長は、「シンガポールには中部圏からも多くの企業が進出している。また、ボーイング787-10の部品の多くは中部の企業で製造されており、この度の就航を歓迎する」と述べた。さらに、「シンガポールと日本は港湾を中心に物流が発達しており、この分野ではIoT・AIの導入を共同研究できる可能性があるかもしれない。名古屋大学とはすでに連携がはじまっているが、他の大学、研究機関、企業とも技術的交流を進めてほしい」と要請した。



(国際部 平山 りえ)